

令和5年度 学校評価シート

学校名：専修学校クラーク高等学院天王寺校

目指す学校像	生徒一人ひとりの可能性をみつけ、才能を開花させる学校
育てたい生徒像	<ol style="list-style-type: none"> 特化型コース・専攻で「好き」や「得意」を追求する生徒 自ら考え、自ら学ぶ力を身につけ、何事にも主体的に行動できる生徒 夢を見つけ、それに挑戦し、達成を目指す生徒

本年度の重点目標	1 特色重視の特化型教育で生徒一人ひとりの才能を開花させる
	2 企業・地域連携授業による非認知能力の向上
	3 希望進路の決定と大学進学率の向上

達成度	A	十分に達成した (80%以上)
	B	概ね達成した (60%以上)
	C	あまり十分でない (40%以上)
	D	不十分である (40%未満)

※ 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目（年度達成目標）を設定する。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。

※ 評価項目に対応した具体的方策と方策の評価指標を設定する。
 ※ 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を受ける。

自己評価					年度評価 (R6年6月1日現在)		
年度	目標	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方策	
1	現状> 特化型教育としてコース制開設3年目となる。完成年度として、各コースの教育実績の創出と進路実現を目指す。	実施している授業の定期的なチェックと指導内容の見直し	・管理職による授業見学と定期的な授業アンケートの実施 ・非常勤教員も含めた授業見学会の開催	・定期的な実施ができたか。 ・適切なフィードバックができたか。 ・授業見学の人数	・定期的に実施でき、改善を図ることができた。 ・授業見学会は専任教員に留まり、非常勤教員にまで拡大できなかった。	B	より専門性を高めた教育を提供するため、業務委託先の開拓だけではなく、教育理念の共有や生徒の状況の綿密な打ち合わせが必要である。生徒の学習記録の定着には時間がかかるものの、コースでの活動等を全教員が把握する上で有効であり、実践例を基に、活用を広げていく。
	課題> ．コース授業の指導内容の精査 ．生徒の学力や習熟度の把握 ．進路への意識づくり	個々の成長を可視化できる仕組みの構築	・外部コンテストへの参加 ・基礎学力チェックテストの実施 ・アプリを使った学習履歴の確認	・外部コンテストにおいて、入賞することができたか。 ・基礎学力の定着が図れたか。 ・studyplusでの学習記録	・外部コンテストは参加に留まり、大きな成果は出せなかった。 ・学習記録の活用は一部の生徒にとどまっていた。	B	
		専門授業の実施にあたり必要なヒト・モノの整備	・年初及び各学期ごとにコース長会議を実施 ・必要な設備や業務委託先を確保	・計画通りに実施でき、目づ、必要な機材や業務委託先を確保できたか。	・機材については計画通り整備できた。 ・業務委託先の確保はできたが、連携の質の向上が必要である。	A	
2	現状> 先行き不透明な現代社会を生き抜く力として、学力だけではなく非認知能力の育成が求められる。グループワーク等を積極的に導入し、生徒の表現力や思考力・協同性の育成に力を入れてきたが、学内にとどめるのではなく、地域社会との繋がりの中でさらに育成していく。	地域・企業・大学等の外部関係機関との連携を強化	・地域・企業・大学等の講演会や連携講座等のイベントの共催	・外部の方の講演会やイベント等が開催できたか。 ・参加者の満足度	・内部での講演などだけではなく、大学見学など、幅広い活動ができた。	A	大学との連携など、外部との繋がりは広げることができたが、地域での活動に積極的に参加できなかったことが課題である。年初からスケジュールを組み、参加の場を増やしていく。情報発信については、広報委員を組織し外部発信をするとともに、保護者へのこまめな生徒活動の報告を徹底していく。
	課題> ．連携先企業の開拓 ．連携の質 ．実施内容の外部発信	生徒の活躍をリアルタイムに配信できる仕組み (ICTの活用) の構築	ICTツールやオンラインを活用した情報配信や学校便りの作成	・タイムリーな情報発信ができたか。 ・生徒の活動をアピールできたか。	・studyplusを活用したタイムリーな配信ができた。 ・SNSを利用した情報発信については、質の向上と、更新頻度・時期が課題である。	B	
		地域行事・イベントでの生徒の活躍の場の創出	・地域行事の情報の入手 ・地域への情報発信 ・近隣中学校との連携	・地域のイベントへ参加できたか。 ・地域イベントを自ら作り出すことができたか。 ・動員数	・地域イベントについては、年間行事の関係で参加者数を増やすことができなかった。	B	
3	現状> 進学・就職を問わず、生徒の第一志望の進路先への決定が学校としての最重要課題である。3学年進級時までに希望進路を見つけれない生徒もあり、結果的に進路未決定の状態卒業していく生徒がいる。	適切な進路選択の機会の提供	・進路ガイダンスの実施 ・外部進学説明会への参加 ・保護者対象の進路イベントの開催	・進路ガイダンス及び外部進学説明会への参加が適切に実施されたか。	・外部の説明会への参加など、適切に実施できた。 ・保護者対象にオンラインでイベントを開催したが、参加率が低く、時期や時間帯の見直しが必要である。	B	大学進学率や進路決定率を向上させることはできたが、依然として進路未決定や浪人生が出ている。1対1のコーチング面談の機会を活用し、1年次から進路に向き合う時間を増やしていく。リフレクションシートについては、取り組みやすさを向上させることにより定着を図る。
	課題> ．2年次末までの希望進路先の決定 ．多様な入試制度に対応した対策の徹底 ．家庭学習習慣の確立	定期的な進路希望の把握	・進路希望調査 (4月・7月・10月・2月) ・進路希望調査をもとにしたコーチング面談	・生徒の進路希望の状況をタイムリーに把握できているか。 ・コーチング面談を実施できたか。	・進路希望調査は適切に実施できた。 ・コーチング面談は実施できない時期があった。また質の向上が必要である。 ・進路決定87.8%と向上させることができた。	B	
		学習状況の把握と生徒自身の振り返り	・個々の進路希望に応じた学習計画の立案 ・リフレクションシートの導入	・生徒全員の学習計画を立てることができたか。 ・リフレクションシートへの記録が定着できたか。 ・大学進学率	・進路別学習計画については、生徒の学力差や希望進路が多岐にわたり不十分であった。 ・リフレクションシートは作業に時間がかかることもあり、取り組み内容の差が大きかった。 ・大学進学率69.4%	B	

学校関係者評価	
実施日 令和6年10月11日	
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>・授業見学について、目的 (落ち着いた環境での授業運営と質の向上) に応じた計画的な取り組みが必要である。</p> <p>・外部コンテストについて、個人エントリーだけではなく、チームエントリーできるものをピックアップして提示していく。</p> <p>・コンテストはファイナルなどの映像があるのであれば、それらを在校生に視聴させることによってモチベーションの向上を図ることができる。</p>	
<p>・地域との繋がりはだいぶ深くなっているが、少し遠方の市町村等とも繋がることによって、クラークの教育を届けることができるのではないかと (オンラインの活用)。</p> <p>・メール配信等は、開封確認を設定するなど、確実に必要な情報が保護者に届いているかの確認・追いかける必要がある。</p> <p>・コース横断型の授業やイベントが少ない (年2回程度) ため、次年度カリキュラムに組み込んだらどうか。</p> <p>・SNSの実行委員による運用はルールを設けた上で、ぜひ取り組んでもらいたい (積極的な情報発信)。</p>	
<p>・大学進学率は向上しているが、年度による変動が大きいと思う。生徒が主体的にキャリアパスを描ける工夫がさらに必要である。</p> <p>・社会人ゲストや著名人などから人生の道りを語ってもらう機会 (生徒だけではなく保護者にも) を設けてはどうか。</p> <p>・チューターの活用については、在校生のモデリングとして非常に良い。</p> <p>・コースの学びを継続・さらに昇華できる進路先 (学部・学科など) を生徒へ提案していくことで、生徒たちの学びへの意識も高まっていくと思われる。</p> <p>・進路活動には仲間の影響が大きい。個人だけではなく、クラスや学年全体の雰囲気醸成していく必要がある。</p>	